

# 日タイロングステイ交流協会

Thailand-Japan Longstay Promotion Association

Newsletter



第2号  
No.2

July 2005

## 日タイ ロングステイ交流協会 会報 (No.2)

### 目 次 Contents

- \* 駐日タイ王国大使よりのメッセージ 駐日タイ王国特命全権大使 スウィット・シマサクン 1  
Message by H.E. Mr. Suvidhya Simaskul, Ambassador of Thailand to Japan for the Thailand-Japan Longstay Promotion Association's Newsletter
- \* 異国の生活では、その国の食文化の理解がもっとも大切である 会員 富岡 郁雄 3  
The key to stay comfortably in foreign countries is understanding her cuisine culture
- \* タイ人と日本人 (講演録) 元タイ矢崎 代表 斎藤 親載 8  
Thai people and Japaneses (Transcript of the lecture)
- \* 日本にあるタイのお寺 (ワットパクナム日本別院と日泰寺) JTBF 会員 上東野 幸男 12  
Wat Paknam in Japan & Nittaiji Temple
- \* タイロングステイ関連ニュース (抜粋) 21  
What's New: Longstay information update
1. マラリア及びデング熱の流行他 在タイ日本国大使館より 14
2. 随想 老後はタイがいい 日本もいいけどね 栗並 登紀男 16  
泰国日本人会「クルンテープ」より
3. 海外ロングステイについて 日タイビジネスフォーラムより 17
- \* タイ王国 ロングステイアドバイザーの知識 (2) 会員 上東野 幸男 20  
Longstay Adviser's Knowledge (2) OA Visa Application
- \* 会員紹介: バンコック銀行 21  
Member's Profile: Bangkok Bank
- \* タイ国政府観光庁 東京事務所から ムアンタイ 第38号 別紙  
News from TAT Tokyo "Muangthai" (No.38) as per enclosure
- \* 《 編集後記 》 Editor's Note 事務局 22

<表紙> (写真:ワットパクナム 日本別院)

<裏表紙> (写真:タイ ラノン海岸の風鈴 - 貝殻製 - )



**Message by  
H.E. Mr. Suvidhya Simaskul, Ambassador of Thailand to Japan  
for the Thailand-Japan Longstay Promotion Association's Newsletter**

---

As we are well aware, aging population is one of the major demographics issues being faced by many modern societies, including Japan and to a lesser extent, Thailand. One result is an increasing demand being placed on the social welfare system, including pension, medical service and nursing care. The challenge is the maintenance of a comfortable standard of living for senior citizens, one in which they could lead a more leisure yet still rich and productive life. This is the underlying reason that we have been promoting Thailand as a suitable long-stay destination for our Japanese friends.

I am sure that I need not elaborate on the extent of the friendship and ties between the people of Japan and Thailand. Suffice to say, we have long been close friends with a mutually beneficial relationship that can be traced back for hundreds of years. It is this "comfort level" that has long made Thailand an attractive destination for Japanese. More than 1 million Japanese tourists now visit Thailand annually, and our business and investment ties are very strong and deep. Japan has long served as a role model and example to Thailand. Furthermore, Japan has proven herself time and time again as a true and loyal friend, whether it was the steadfast support during the 1997 financial crisis or most recently in the aftermath of the deadly Tsunami in the Indian Ocean in December of last year. The heartfelt outpour of concern and support from the people of Japan to assist our recovery from that disaster shall long be remembered and treasured by the Thai people.

It is with this backdrop of longstanding friendship and cooperation that I welcome the establishment of the Thailand-Japan Longstay Promotion Association. The objective of the Association, namely the promotion of longstay in Thailand for Japanese, is a timely issue in light of the changing demographics in Japan. Thailand is well suited to assist Japan on this matter for our mutual benefits, for we have a lot to offer. Many Japanese have long known about Thailand's beautiful locales, comfortable climate and warm and friendly Thai hospitality. But we also offer first-class medical facilities, a wide-ranging number of interesting activities and a very reasonable cost of living. All this should ensure that Japanese senior citizens who choose Thailand as a longstay destination shall enjoy a comfortable life style. We very much look forward to welcoming our friends from Japan, for we view this not only as our proud duty as host, but as an opportunity for further information and cultural exchanges in order for Thais to enrich themselves by having the chance to learn from the rich and varied experiences of our senior Japanese friends.

I wish the Thailand-Japan Longstay Promotion Association every success in its efforts to promote longstay in Thailand, and commend the efforts and dedication of the members of the Association, many of whom I have personally met. I know that one prime reason behind their efforts is a true love of Thailand and the Thai people, and for this I wish to express my heartfelt appreciation. The Royal Thai Embassy and other related offices stand ready to cooperate with the Association to help ensure that the senior citizens of Japan have the opportunity to enjoy a comfortable, productive and meaningful lifestyle in Thailand for the mutual benefits of the two countries.

\*\*\*\*\*

## 駐日タイ王国大使スウィット・シマサクンより 日タイロングステイ交流協会ニュースレターへ向けたメッセージ

---

ご承知の通り、高齢化は多くの現代社会が直面する主要な人口問題であり、それは日本、そして度合いは低いですがタイにも当てはまります。その結果の一つとして、年金・医療・介護を含む社会保障システムに対する需要が増加しています。ここで課題となるのが、高齢者がよりくつろぎ、かつ豊かで生産的な人生を過ごすことができる快適な生活水準の維持であります。このことが、我々が日本の友人たちに対してタイをロングステイに適した目的地として奨励する根本的な理由です。

日本とタイの人々との友情と絆の深さについては詳細を述べるまでもないことと思います。何百年も遡ることができる互惠関係に基いた親しい友人である、ということを書けば十分でしょう。この安心感が、長い間タイを日本人にとって魅力的な目的地としてきたのです。今や年間百万人以上の日本人観光客がタイを訪れ、ビジネスや投資のつながりも強く深いものです。日本はタイにとって模範的な役割を果たしてきました。更に、1997年の金融危機の際や、最近では去年12月にインド洋で起こった破壊的な津波の直後に根強い支援を提供することで、日本は誠実で忠実な友人であることを何度となく証明してきました。災害からの我々の復興に力を貸すために日本の人々から寄せられた心からの気遣いと支援を、タイの人々はいつまでも忘れることなく大切に思うことでありましょう。

この長年の友情と協力関係を背景として、日タイロングステイ交流協会の設立を歓迎いたします。日本人のためにタイでのロングステイを推進する、という協会の目的は、日本における人口動態の変化という観点からすると時機を得たものであります。我々が提供できるものはたくさんありますので、相互利益のために日本を支援することにタイは適しています。タイの美しい場所や快適な気候、そして暖かく親しみやすいタイのもてなしの心に関して、多くの日本人がご存知でいらっしゃると思います。その上、我々は最上の医療設備、幅広い分野での興味深い活動、また手頃な物価をも提供しています。こうした全ての要素によって、タイをロングステイ先として選ばれた日本の高齢者の方々が快適なライフスタイルを送って頂けることが保証されます。ですから我々は、日本からの友人をお迎えすることをとても心待ちにしております。なぜなら、我々は迎え入れることをホストとしての光栄な義務としてだけでなく、タイ人が日本の友人たちの豊かで多様な経験から学ぶ機会を得ることで自分たち自身を高めるための情報・文化交流の好機と捉えているからです。

日タイロングステイ交流協会によるタイでのロングステイを奨励するための取り組みのご成功をお祈りしますとともに、協会の会員の方々のご尽力とご献身に感謝申し上げます。会員の方々の方々の取り組みの背後にある最大の理由の一つは、タイとタイ人に対する真の愛情であると理解しております。そしてこの点に関して心より御礼申し上げます。両国の相互利益のため、日本の高齢者の方々がタイにおいて快適で生産的そして有意義なライフスタイルを楽しむ機会が得られますよう、タイ王国大使館とその関連機関は協会と協力させて頂く所存であります。

## 異国の生活では、その国の食文化の理解がもっとも大切である

会員 富岡 郁雄

6月の半ば、カンボジアの外国人幼稚園で人質騒動があり、残念ながらカナダ人の幼い子が亡くなりました。

人質事件の引き金の要因は、同園に子供を通わせていた韓国人の家庭に出入りしていたカンボジア人運転手にあったようです。この運転手は、以前迎えに行く時間が遅くなったことを理由に、主人からピンタを受けたことを恨んでの犯行と報道されました。私は、この事件報道を知った直後、4月の「日タイロングステイ交流協会」主催の「タイ人と日本人」講演会での、斉藤親載氏（元タイ矢崎代表、タイ在住歴17年）のお話を思い出しました。

斉藤氏の講演では、タイ文化等に関し、非常に広い視野からご自身の経験を通しての様々なエピソードを話されましたが、その中の一つに「タイ人に対して、注意したり、叱ったりする場合は、人前で決して行ってはいけない・・・」と言うような内容であったと記憶しております。

私はクリスチャンではありませんが、聖書の中でも、“人前でのピンタは最大の屈辱”とされているそうです。

カンボジアは、タイと同様に仏教圏でもありますが、日本でもそんなに簡単に他人を殴ること事など、許される訳はありませんから、残念な出来事であったと同時に、こうした事件に発展しないような細心の気配りが海外での安全のために、とても重要な事ではないでしょうか。

そんな訳で、今回は、その国の文化に視点をのけた旅行・滞在に関しましての雑感を、写真を添えて掲載させていただきます。

私は、昨年の10月にリエイロングステイヤーズクラブ主催の「熟年男のタイ料理」なるセミナー講師を仰せつかりましたが、「その国の文化として最初に経験するのは何と言ってもその国の食べ物ではないか」と考えております。

TVなどでは、海外の食文化をテーマにした番組が盛りだくさんですが、必ずや、料理に対して「美味しいか？」という質問が寄せられイタリアだったら、「ボ～ノ、ボ～ノ」と、おなじみの言葉となりましたが、英語圏でしたら「ベリー・デリシャス」そして、タイでしたら「アロイ」と言うだけで、その国の方とのコミュニケーションに弾みがつきます。

7月6日付けの新聞で、フランスのシラク大統領が「食べ物が世界で一番まずいのはフィンランドで、2番はイギリスだ・・・」と暴言を吐いて話題と成りましたが、何処の国の人でも、自国の食べ物が世界一と思っているはずですから、味をほめられて気を悪くする人など皆無ではないかと思われま

す。

私は、アジア地区への訪問は数える程しかありませんが、ことタイ料理に関しては17年ほど前からいろいろ思い入れがあり、独学に近い形でチャレンジしてきました。

最初のタイ料理との出会いは、まだ、東京都内に数軒程度のタイレストランしか存在しない20年ほど前にさかのぼります。当時、虎ノ門にあった「メイヤウ」というお店でした。同店は、映画「マルサの女」が流行った頃、相当高額？！な立ち退き料をもらったのか、地上げで消滅してしまい、現存しません。もう一軒、有名だったのは、有楽町の「チェンマイ」というお店で、当時の看板娘のタイ人女性の写真は、現在でも当時のまま使用されている模様です。もちろん、ご本人も健在ですので興味のある方は是非、お店の方へ。

ところで、ロングステイ等でこれからタイ滞在を希望されている方が沢山いらっしゃると思いますが、「どーも、タイ料理が苦手、特にあのくさい～葉っぱがどうしてもなじめない」という話をよく耳にします。その葉っぱ、私も、初めて食した時は、「へび・いちご」の臭いとよく似ていて、変なもんだと思いましたが、今では、欠かせない大好きな野菜の一つとなりました。

日本では、古来、馴染みのない野菜ですが、台湾、中国などアジア全域に渡り相当数栽培されていることには意外にも気づきませんでした。メキシコなどでも日常的に食されている野菜で、タイ語で“パクチ”、中国・台湾では“香草＝シュンツァイ”そして、インドカレーには欠かせない“コリアンダー”も乾燥パクチの種ですから「俺は、あの味は嫌いだ」と言われている方も既に口に入れてしまっている可能性もあります。最近では近所のスーパーでもよく見かけるほど、ポピュラーな野菜となりました。

料理も素晴らしいですが、タイの方々は、大変優しく、柔らかく感じる言葉は特に親しみを感じます。だからと言って、優しくされると勘違いする殿方も多い様ですので、その方面の文化にも、十分注意されないと、とんだ目に合うことも有るようです。

タイ料理は、辛くて、独特のスパイスを沢山使用して料理しますので、好きになれないと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、タイでの多くの料理は、意外にも中国料理に通じる味となっていることも見逃せません。

タイ人の多くは、中国系民族であることが大きな理由ですが、それに加えインドやマレー等、近隣諸国のミックス食文化でもあり、日本人の好みに合った料理を見つけるのはそれほど難しくはないはずです。

魚を原料にして作られるナンプラーと言われる“魚醤”や各種発酵食材は、タイ米と共に、日本の食文化と多くの共通点を持ちます。

以前タイを訪問した折、料理を教えてくださいました園田梅子先生（写真 P8：タイ人と結婚、在住歴60年）の味付けは、日本人好みのレシピとなっているため大いに参考になりました。

タイ料理について、もっと詳しく述べたいところですが、「百聞は一見にしかず」ですから、これからショート及びロングステイ等をお考えの方は、是非、現地タイで、本場の料理レッスンに参加されることをお勧め致します。

バンコックなどでは、多くの料理教室が開かれておりますし、食材の名前を覚えたり、料理を通じてタイの方々と触れる絶好のチャンスとなり、異文化交流が出来る最短の方法ではないかと考えます。（なお、当交流協会事務局でも、現地での料理教室のご案内などのご相談も承っております。）





P 1 :  
**涅槃像 (ワットポー)**

タイを理解するには、  
小乗仏教の基礎知識が必修



P 2 :  
**家の中にも仏壇は必修**

タイのいたる所に寺院が点在  
するが  
家や、お店のなかにも  
必ず見かける仏壇



P 3 :  
**仏花の代表は蓮**

花屋さんの店先には必ず  
置いてある  
色とりどりの蓮のつぼみ。



P 4 :  
**バンコック市内の  
コンドミニアム**

バンコック市内は、交通渋滞を除けば、東京より遙かに多くの魅力的なところが散在する



P 5 :  
**タイの秋葉原は活況である**

中華街の一角に、電気街があり、格安で電機製品が入手可能  
タイ国産が数多くあり、オーディオ製品は日本価格の 60 ~ 70%OFF



P 6 :  
**タイ料理の主役は  
“とんがらし”**

タイ料理は、辛くて、酸っぱくて、あま~いのに加え、体に良いスパイスが沢山使われる  
食材が豊富なのには、驚いてしまう  
タイの冗談に「タイでは、餓死する人は1年間で一人だけ」も、うなずける





P 7 :  
**タイ家庭料理はスローフード**

タイの家庭料理では、  
“クロック”と呼ばれる  
石臼で調理するため熱が出  
ず、スパイスの香り、ビタミン  
が破壊されにくい



P 8 :  
**私のタイ料理の師匠**

バンコクの料理教室で、  
作った料理を試食。  
タイ人と結婚し、タイ在住歴  
約60年  
群馬県出身、  
タイでもかかあ天下？！



P 9 :  
**トム・ヤム・クンには  
パクチの葉は欠かせない**

世界的に有名になった  
タイ・スープ  
“辛くて、酸っぱい、  
海老スープ”

# タイ人と日本人

元 タイ矢崎 代表 齋藤 親載

1. 「タイ」のイメージの変遷 瘴癘（しょうれい）の地から、都下バンコク郡へ  
私（齋藤）は、タイ国には2度駐在し、合計17年生活し、永住権も保有。ちょうど旧制中学一年生の時が終戦（1945年）で、タイ国に出征していた日本兵士11万人が続々帰還してきたが、マラリア罹病者が多かった。当時のタイは瘴癘（風土熱病）が蔓延する未開地で、富裕層はラングーン（ヤンゴン）やサイゴン（ホーチミン）に買物旅行をしていた。この60年間の政治・経済変化でタイ国はミャンマーやベトナムに大逆転し、今やインドシナ半島諸国はパーツ（タイ通貨）圏になっている。
2. 日本人社会の概況  
自動車（日本メーカーが牽引役）やエレクトロニクスの生産販売急増などの経済繁栄、タクシン政権の安定。タイ国在住日本人数万人（在留登録者3万2千人）・日本人学校生徒2,200人、日本人商工会議所加盟企業1,200社超。日本料理店400店など。  
**今や日本人の最も住みやすい「東京都下バンコク郡」の様相を呈している。**
3. 企業と人を惹きつける「タイ」の魅力  
(1) 政治経済面  
タイ国に何故日系企業や日本人が多いのか。600年前からの琉球との貿易、アユタヤ王朝での山田長政の活躍（400年前）などの歴史。タイ国王室と日本国皇室の縁（日泰寺のことなど）。1961年来三度の経済投資の大波に日本が関与し、海外からの投資の40%は日本。二国間ODAの三分の二以上は日本から等々ギブアンドテイクがうまくいっている。即ちバランスの取れた関係である。しかも日本はタイ国への政治介入を全くしていない。タイは「自由」を意味し、制約を嫌う国・民族である。またタイでの日本人は節度のある態度・行動をとってきた。日本人のジェントルマンシップに対し、アグレッシブ・ラフ・怒りやすい国民は嫌われがちである。  
(2) 相性の良さ  
日タイともアバウトな国民性なので相性が良い。非契約的な血が同じ。歌も共通性ある。「ドクマイ ハイ クン 花をあなたに」はタイの古い歌だが、日本（沖縄）の「花」のメロディと同じである。
4. タイ文化の二面性と国民性  
(1) タイ人とは？  
タイ民族の90%以上がタイ族。中国人（華僑・華人）が500万人。タイ人口の半分は

中国の血（混血）である。

## （２）対蹠的なインド文化と中国文化

タイ国はこの二つの混合文化である。タイ文字はインドのサンクスリット文字の変形、タイダンスのラマヤーナもインドから伝来。インド思想は輪廻で未来があり、享樂的・刹那的である。一方タイ国の経済（最近は政治も）を握る中国人の先人は潮州などからの出稼ぎで一代にして財閥の基礎を造り、質実剛健・勤勉・計画的であり、蓄財一途即ちお金が最も大切としてきた。これまで中国人は経済発展を推進して、政治には出ていなかったが最近の首相は全部中国人である。中国人がうまく溶け込んでいる国である。

## （３）タイ人気質と民族の特性

### （ア）「マイペンライ」と「マイミーパンハー」

マイペンライは「ドントマインド・気にしない」の意味だが、タイ人はもっと広い考えで使っている。日本の感覚だけでは対応できない。マイミーパンハーは「問題ない」であるが、「徒に騒ぎたてない」更に大物ほど「自分の問題として解決する」との意味でよく使われる言葉である。

### （イ）無限の柔軟性（起き上がりこぼし）

タイ人は「無限のフレキシビリティ」を持っている。難局はあらゆる手段・方法を用いて切り抜ける。機を見るに敏であり、味方にすれば強い。その「起き上がりこぼし」は日本人には真似が出来ないところである。一度も欧米列強の植民地にならず、第二次世界大戦も日本の同盟国であったが、外交能力の巧みさで敗戦国になっていない。

### （ウ）S E C（slow, easygoing, corruptive）

遵法精神が弱く、腐敗体質がある。中国人的に問題解決の優先順位は「情」「義理」「律」で家族を第一に考える。

### （エ）国王崇拜、仏教帰依、etc.

- \* タイ仏教は日本とは異なる小乗仏教。お寺は日本より少ない3万だが、僧侶は27万5千人であり、朝の托鉢から日常生活に仏教があり、僧侶は特別な存在。
- \* 縁起かつぎ： 数字の9は大好き、6は嫌われる。
- \* 権威に弱い \* 学歴偏重 \* 自己中心
- \* 自尊心が強い： 女性の自立心が強く、能力もあるので積極的に社会進出する。
- \* 食事： 何時でも何処でも食べる。外食が多い。
- \* 大家族から小・核家族に進行
- \* 祖先・年長・上司を敬う

## 5. 似て非なる、日タイ生活習慣の違い

### （１）お礼（挨拶・お返し）

お礼はその場で言うが、かなりの額の物でも二度（次回）は言わない。またお返しは何かの記念日などに行い、すぐにはしない。

### （２）タンブン（寄付）

「富める者・持てる者が寄付や贈与するのは当たり前である。お寺や貧しい人に贈る機会を得たことに感謝すべきである」との考えである。

ODA などの海外からの支援への反応も日本とは違う。

### (3) その他

- \* タイ料理にナイフは使わない(スプーンとフォーク)。
- \* ハンカチや刃物類は贈らない。
- \* 衣服に名前を入れない。
- \* 自動車免許証は期限後更新する。
- \* 相続税はない(他の名目では徴収されるが)
- \* 特に中国人は牛肉を食べない。
- \* 重厚長大を好む。

## 6. タイ人に対して、してはいけないこと、留意事項

- \* 自由を束縛しない(規則一辺倒でない融通性が必要)。
- \* 面子を傷つけない。
- \* 人前で叱らない(個室で静かに話すこと)。
- \* 他人の頭に手をやらない(頭には精霊が宿る)。
- \* 足に注意(机の上に足を乗せるのはもっての外)。
- \* タイ人は、上司や人前で反論や意見を述べない。反応が遅いので追いつめ易い。激情はしないが、顔が青くなったら要注意。
- \* ワイ(合掌)は目下の人にはやらない。相手によってワイの高さに注意。

## 7. タイ人は日本・日系企業・日本人をどう見ているか

- \* 欧米人(コン ファラン)を高く評価する。尊敬と特別扱いする。
- \* 日本人はギブアンドテイクのバランスの上にある。節度ある行動、日常の努力次第で評価される。
- \* タイ経済発展で日本への僻みは少なく、日常日本ブランドに接しているので好感を持っているが、知識人は日本に厳しい見方である。
- \* 日本企業に対す見方が最近変化している。欧米企業(給与高く・英語が必要)とタイ企業(給与安く・働き易い)の中間的存在であったが、日本企業への関心は弱くなっている。

## 8. タイで生活する場合のまめ知識いろいろ

- \* 日本人の生活物資・食物は揃っている。日本からのお土産は有名店物や新鮮物。
- \* デパート・ショッピングセンター・食品スーパーなど利用し易い。
- \* メディア  
読売新聞はバンコク印刷で朝配達。朝日と日経はシンガポール印刷で午前配達。



TV 放送は 60 ~ 70 CH と多く、NHK も（時差はあるが）視聴可能。

- \* 交通は 96 年まで大渋滞。BTS・地下鉄開通で緩和されたが、最近渋滞再復活。
- \* 病 院 かつて設備は素晴らしいが医師に問題があった。海外留学医が帰国し、高水準で日本語対応の大病院が増えた。  
バムルンラード、バンコク、ラマ 9 世、サミティベート病院
- \* 地 震 バンコク周辺のタイ中部には地震はない。  
北のチェンライ、チェンマイに地震帯がかすめている。
- \* マッサージ 安くて上手なので頻繁に利用できる。
- \* ゴ ル フ 全国で約 200 ヶ所あり、ヴィジターも気軽にできる。  
平日なら中級コースで 3 千円程度。
- \* 弁 護 士 外資が流入し、急速に契約社会になってきた。数は日本の 2 倍の 3 万 5 千人と多いが、玉石混交である。法学部卒業・1 年実習・形式的試験で登録されるので、選任には要注意。

#### 9. 変わりつつあるタイの治安（so far 体感治安はよし）

##### （ 1 ） タイ南部テロ続発の背景

南部 3 県（イスラム教住民多数）のテロは国外勢力がらみで、04 年 4 月から増加し、800 人以上の死者（05 年 7 月）。タクシン政権の悩みの種である。

##### （ 2 ）一般治安状況 いろいろ

- \* 統計的には人口当たりの殺人件数はアメリカ全土平均以上。但しタイ国で理由なく外国人が殺されることは少ない。  
危険な所でなければ、夜間（女性の）一人歩きも可能。
- \* 空港の白タクに注意、リムジンを申し込むのが安全。また出迎え詐欺に要注意。
- \* テロと誘拐のない国であったが、海外から犯罪の根が来ている。

#### 10. タイ ロングステイに関するアドバイス

これまでいろいろタイ国・タイ人についてお話ししました。ロングステイには国民性・生活習慣・文化の差異を認めることとコミュニケーションが大切です。タイ王国は生活利便性・日本人とタイ人の相性の良さ・対日感情・気候風土・自然・文化歴史・治安・医療などから、ロングステイに最適な国と思います。

更に、詳細に情報を集め、下見旅行などをして、タイ国にお出かけ下さい。私もタイ国の永住権を取得しており、時々タイ国に出かけておりますので、また現地でお会いできると思います。御清聴ありがとうございました。

（ 2005 年 4 月 6 日 日タイ ロングステイ交流協会主催セミナーの講演録です。）

## 日本にあるタイのお寺 ワットパクナム日本別院 と 日泰寺

JTBF 会員 上東野 幸男

6月に大栄町（千葉県）のワットパクナム（表紙写真）に行った。ここ約1年で4回の訪問になる。

春秋の彼岸会・盂蘭盆会・施餓鬼会には先祖代々の菩提寺（曹洞宗）でお説教を聴く日本の標準的仏教徒として、また息子の結婚式をタイ国（仏式）で行なったタイ国滞在者としてお寺は「落ち着きと懐かしさ」を感じる場所である。今回はタイ国大使館主催の在日タイ人向けのマッサージ研修の修了式への飛び入り参加である。タイ人僧侶の振舞い・読経・聖水かけなど一時タイの世界が演出される。

ワットパクナム・パーシーチャロン（タイ）は18世紀アユタヤ王朝末期、パク（口）ナム（水）の名前通りにチャオブラヤ川河口トンブリ地区に建立され、「瞑想」を重視し、尼僧が多い（男僧260名、尼僧150名、少年僧60名）。一方、日本別院は在日タイ人の寄進により、1998年オープンし、5年半かかり今年4月「ウボソ」（本堂・布薩堂）が完成して105人のタイ僧侶と約3,000人のタイ人が参集した。

現在タイ人僧侶6名で、マッサージ修了式には3名が壇上に並び、仏教儀式後参加者一人一人に（私のような部外者にも）プラクルアン（お守り）と縁起本を授けてくれた。

タイ国大使館はここで研修以外に移動領事館も開催し、昨年は約2,000人のタイ人が文字通り密集し、タイ語、タイの音楽・香匂・料理などタイの田舎のお祭りに紛れ込んだ感であった。別院の周囲は畑であり、修了式後の野菜炒めと魚のから揚げの昼食などもタイ東北（イサン）のお寺を思い出す雰囲気であった。



日泰寺は、手許の「大辞林」にも載っている、明治 37 年（1904 年）誕生の名古屋市覚王山の門前町にある大寺院である。名前の通り建物は七堂伽藍の典型的日本寺院で日本仏教 19 宗派が交代で住職を務めている。ネパールとの国境近くのインドピプラーワールの古墳で発掘されたお釈迦様の遺骨（仏舎利）がシャム国王（ラマ 5 世・チュラロンコン大王）に寄贈され、更にシャム国からビルマ・セイロン・日本に分骨され、日本国内競争の結果名古屋に決定。釈迦を示す「覚王」を山号とし、寺号はシャム国がタイ王国に国名変更した 1932 年に（タイ王国と日本国を示す）日泰寺と改名された。

ご本尊は仏舎利とシャム王室寺院伝来の釈尊像の外来物である。タイ国の雰囲気を与えるのはシャム国王（皇太子）の銅像と現在のプミポーン大王（ラマ 9 世）の「お手植えの松」である。普段の参詣客はタイ国に縁のある少人数だが、参道・境内にも露店が並ぶ縁日に集まる多くの人の中で寺の縁起（タイ国との関係）を知る人はどれだけいるのか気になるところである。



<日泰寺仏舎利奉安塔>

いずれにせよ 現在の日タイ関係や在日タイ人状況から、東京にも他地区にもタイ寺院がもっとあっても良いと思う。日タイ ロングステイ交流協会会員・タイ国ロングステイ志望者・タイ国駐在 OB の皆様には一度双方の寺を参詣されることをお勧め致します。

## 在タイ日本国大使館（7月号）より

### [1] タイ：マラリア及びデング熱の流行（2005/06/28）

#### 1. 概要

タイでは雨期が始まったこともあり、蚊を媒介としたマラリアやデング熱の発生が確認されており、また、2004年より発病者が増えている傾向にありますので注意が必要です。地方によって若干異なりますが、タイは5、6月から10月頃までが雨期の季節となり、蚊の活動が活発になります。タイに渡航、滞在を予定されている方は下記の点に十分ご留意下さい。

#### 2. 各地の発生状況

##### （1）マラリアについて

ミャンマーと国境を接する西部各県及び南部（チュンポーン、ラノン、スラータニー、ヤラー、パンガーの各県）でマラリアの発生が確認されました。また、南部・西部以外でも数人の感染者が確認されていますが、これらの感染者はタイ中央部のサラブリ県、プラチンブリ県、ナコンラーチャーシーマール県、ナコンナーヨック県にまたがるカオヤイ国立公園に行き、そこでマラリアに感染したことが確認されました。

##### （2）主な地域のマラリア発生状況（2005年6月11日現在）

###### （イ）南部チュンポーン県

チュンポーン県の病院の報告によれば、チュンポーン県内のみで220人以上の感染者が確認され、うち54人が入院して病院治療を受けました。マラリアの感染者数は増加の一途をたどっており、重症感染者の多くがミャンマーとの国境地域に住んでいるミャンマー人とのことです。

###### （ロ）南部パンガー県

パンガー県内のマラリア感染者数は、6月1日までの確認で450人が確認されており、うち1人が死亡しました（因みに昨年1年間のパンガー県内における総感染者数は390人）。

###### （ハ）南東部トラート県

トラート県では、チャン島をはじめその付近の島々でマラリアの発生が確認されています（死亡者の有無については不明）が、トラート県のマラリアは他県・他地域よりも脳症の発生が早いという報告もあります。



##### （3）デング熱について

2005年1月から6月11日までのデング熱の感染者数は計13,158人で、うち23人の死亡が確認されました。感染者数は昨年との比較で45%増えています。バンコク郡では計1,154人の感染が確認されています。また、日本からの観光客も多いサムイ島を含むスラタニー県では361人の感染者が確認され、うち1人の死亡が確認されています。

地域別に見た全国のデング熱感染者・死亡者数統計は、タイ北部が感染1,968人、死亡5人、中央部が感染5,900人、死亡12人、東北部が2,732人、死亡3人、南部が2,558人、死亡3人となっています。



### 3. 対策

#### (1) マラリア対策

地方へ出張、しかも森林の奥深く入る可能性のある人は医療機関に早めに相談して下さい。一般に処方されている予防薬は、そういった地域に入る一週間前から1週間に一度の割合で潜伏期間が終わるまで服用することになります。マラリアの潜伏期を考えるとマラリア流行地域から戻った後、1ヶ月は服用し続ける必要があります。

また、予防薬は完全ではありませんので、もしその間に発熱があればマラリアを疑う必要があります。マラリアは夕方から夜間にかけて吸血行為をするハマダラカが媒介します。マラリア原虫を持つ蚊に刺されることによって感染しますが、人から人への感染はありません。蚊に刺されないようにするため、下記のデング熱対策の下段を参考にして防虫対策をとって下さい。

#### (2) デング熱対策

デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。媒介する蚊はネッタイシマカ、ヒトスジシマカなどで、これらの蚊は古タイヤや植木鉢などに貯まったごく小さな水たまりでも繁殖するため都市部でも多く見られます。

長袖、長ズボンを着用して皮膚の露出を減らすようにし、室内では蚊取り線香などを使用する、外出時は虫除けスプレーを数時間毎に塗るなどの予防措置を必ず励行して下さい。

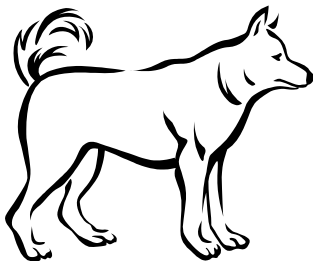
蚊に刺されないこと、そのための防御方法を工夫することが最も肝要です。

## [2] 犬、猫等の新しい検疫制度 (2005/06/22)

狂犬病は人を初めとする多くの動物が感染するウィルス病で、一旦発症するとほぼ100%死に至ります。日本では昭和32年以降、約半世紀確認されておりませんが、現在も多くの国で発生が見られ、毎年4万人~7万人が死亡していると推測されています。(WHO)

近年のペットブームで、狂犬病が発生している東南アジアからの子犬の輸入が急増し、日本への狂犬病侵入リスクが高まっていると考えられます。こうした中、英国等で行われている検疫制度及び最新の科学的知見を踏まえつつ、犬等の検疫制度が抜本的に見直されることとなりました。

1. 新しい検疫制度の下では、10ヶ月未満の犬及び猫の輸入による狂犬病の侵入リスクが比較的高いことから、原則として、狂犬病正常地域以外からの10ヶ月未満の犬及び猫は輸入できません。



2. 狂犬病フリーの大臣指定地域以外(タイ国はこれに該当します。)から犬、猫等を日本へ輸入する場合は、少なくとも帰国7ヶ月前から以下の手続きを始める必要がありますので、お早めにかかりつけの獣医にご相談されることをお勧めいたします。

< 随想 > 老後はタイがいい 日本も良いけど

栗並 登起男

このところロングステイは流行語である。安い生活費で暖かい所で老後をすごすイメージである。在タイ十七年の中高年の私は人生の終着駅を視野に入れながら、タイで老後を如何に過ごすか思案中である。

一年半ぶりの日本

久しぶりにソクラン休日に帰国した。生まれた孫を見にも来ないと文句を言われていた。年をとったせいか帰るのが億劫になったが、かつての同僚達の老化を確認するのも良いだろうと。ソクランは桜の時期でもある。成田からの京成電車の窓の外にも満開の桜があちこちに見えた。張りきって上野の夜桜を見に行った。あいにく三日続けて終日小雨。

莫塵敷いて飲み歌う人は少なく寂しかった。かつては毎年遊んだ靖国神社や千鳥が淵の桜は見るチャンスがなかった。日本は夜が明けるのが早い。早朝五時、ルンピニ公園も良いけど、日本の公園で桜の下を走るのもいいものだ。久しぶりの桜に元気づけられた。

タイの生活費は安いのか 確かに安い

時事速報にタイ公務員の給与の記事があった。220万人、月300億バーツ、月平均14,000バーツ。現在月一回の支払を二回にするか検討中と。平均的サラリーマンだった私の今の収入はどうか。45年勤務の厚生年金は月25万円、8万バーツ。タイ公務員の5倍だ。日本で痛感したのは何でも高い。交通費、食事代、ゴルフ代などいつもタイと比較している。茨城県の有名コースで土曜日ゴルフをした。キャディはおばさん一人。

下手な私はいつも3本持って走り廻っていた。運動にはなるが、ゴルフはタイに限る。特に寒がりの私には常夏が何よりだ。風邪もひかない。衣類は簡単。

ペイオフ対策		省略
老後は夫婦で	辛抱と忍耐と我慢をのりこえて	省略
もし愚妻が先に逝ったら	タイに恩返しができるかも	省略

やはりタイです。 ロングステイを考えている方々へ

十日ほどの日本滞在から戻った。ほっとしている。日本も良いけど、やはりタイが私には合っているようだ。日本で感じた、どこへいっても高そうだなという不安感がない。貧乏に質素に生きてきた人には向いていると思う。私が無責任に保証します。老妻は日本人会に入り、パドミントン、子供図書館、ギターなどの会でどこでも最高齢だそうです、楽しんでます。皆さん、どうぞ、心豊かな老後をタイでお楽しみください。

## 海外ロングステイについて

### 1. 海外ロングステイへの関心急上昇

最近、海外ロングステイ(以下海外LS)への関心が増大している。これは

1. 海外生活の情報を知る・調べられる・相談するチャンスが多くなった。
2. 海外LSをサポートする機関・団体が充実してきた。
3. 旅行会社や海外LSサポート事業者の下見ツアー・生活体験ツアーが活発になった。
4. 年金の有効活用の選択肢としての認識がたかまった。

など、海外LSを取巻く環境変化によるものと思われる。即ちマスコミの多くは相変わらず牽強付会のストーリー作りと過剰な演出や「生活費の安さ」だけを訴求しているが、次第に健全な海外LS情報が提供されるようになってきている。

例えばガイドブック・書籍は総花的LSから国別LSガイドが(漫画も含め)次々と出版されている。2004年、新しい海外LS専門雑誌として「(海外で人生を遊ぶおとなの雑誌)ラシン rasin」、 「(南の島暮らしのための情報誌)楽園生活」や「(海外ロングステイ応援マガジン)悠遊自適」などが刊行され、今月は「(海外・日本どっちも暮らしの本)Libero」が発刊される。「(自由に働く自在に遊ぶ、人生の達人へ)日経マスターズ」をはじめ「(50代からの暮らしの生き方マガジン)毎日が発見」、「(50代の生き方暮らし方)天上大風」などの高齢者・退職者向けの雑誌にも、NPO新現役ネットの「らいん」、(社)長寿社会文化協会(WAC)の「ふれあいねっと」など高齢者を組織する団体の会報にも、投資家雑誌「ジャパニーズインベスター」などにも「老後を海外で暮らすこと」が記事になるようになった。また、海外LSのセミナーもさらに盛んに実施されている。



ちなみに 海外在留邦人数(3ヶ月以上)(2003年10月1日)は、全体では過去最高の911千人(前年比4.5%増)で、2006年には百万人超の見込みである。内、アジアは207千人(前年比9.9%増)で全体の23%を占める。

また2004年10月1日のタイ国在留邦人(在タイ日本大使館発表)は32,442人(前年比12.7%)で、バンコク首都圏に26,681人、チョンブリ2,063人、チェンマイに1,234人である。なお2004年のタイ国入国外国人1,174万人のうち日本人はマレーシアに次ぐ第2位の121万人で前年比16.3%と増加している(2005年はインド洋大津波の影響が心配されるが)。

## 2. 海外ロングステイのサポート

海外LSをサポートする機関・団体が多くなり、サポート内容も充実してきた。更に今後これらの海外LS関連事業者が特に注目するのは、(1)ロングステイヤー希望国のアジアシフト (2)医療・介護の不安や心配の解消 (3)2007年以降の団塊の世代大量定年である。

\* 1947年～49年生まれの団塊の世代(690万人)は、1970年代のブライダル需要など消費や流行に大きなインパクトを与えてきたが、海外LSには(前世代より更に)抵抗感がなく拍車をかけると考えられる。

(財)ロングステイ財団の賛助会員(LS関連事業者)も2003年夏の28法人から現在50法人超(2006年3月には100法人見込みとのこと)となり、財団認定の海外サロン(日本人ロングステイヤーへの現地サービス拠点)も2年前の14拠点(タイ国バンコク1拠点)から現在21拠点(タイ国バンコク3・チェンマイ1拠点)に増加している。これなどは特に上記 (1)アジアシフト (3)団塊の世代大量定年 への期待感もあろう。

## 3. タイ国ロングステイについて

2年前にも「タイ国は海外LSの諸条件では日本人に最適である」との私見を述べたが、ロングステイ財団等の調査・アンケートではアジア(特にタイ国)への評価や人気は低かった。しかし最近のアンケートなどの評価は変化(人気上昇)してきた。また前述の海外LSの専門誌「ラシン」を発刊したイカロス出版の「ロングステイ50都市ランキング」(2005年3月)も同傾向を示している。11項目(物価・治安・医療・気候・対日感情・LSビザ・英語の通用・日本語の通用・日本食材・日本との距離・ゴルフ)で満点55点の評価で、**チェンマイ**が45点でペナン(マレーシア)と第1位、**バンコク**が44点でゴールドコースト(オーストラリア)と第3位である。

LSジャーナリストの戸田智弘氏は9項目(治安・物価・住居・言葉・医療・文化娯楽・アクセス・ビザ・その他)で評価し、**チェンマイ**が第1位(71点)、**パタヤ**が5位(65点)、**バンコク**が7位(62点)、**ホアヒン**が8位(60点)でタイ国の評価が高い。オーストラリアはパース(2位)とゴールドコースト(3位)、フィリピンはダバオ(3位)とセブ(6位)。以下 クアラルンプール(9位)・カナダ(10位)がベスト10である。

タイ国での日本人LS振興のため、2003年5月「海外ロングステイについて」でタイ国のLS施策に対し、「タイ国は親日感情・仏教・歴史・文化・食事・安全・医療介護・日本情報・学習など日本人LSの条件で(他国より)優位にあるが、タイ国を知らない多くの日本人の評価は低いので、広報・宣伝・マーケティング活動を強化すべきである。ロングステイヤーにはビザ等の制度だけでなく、サービス向上などソフトが大切」と提言した。

タイ国のLSプロジェクトを振り返ると、タクシン首相就任後01年にロングステイ委員会設置。年末にTLM社(タイ・ロングステイ・マネジメント)の設立が閣議決定。2002年9月にTLMが資本金1億バーツ(タイ政府観光庁TAT30%、国内45%、海外25%)で発足した。しかしその後のTLMの諸活動計画は頓挫し、経営不振の状況に至っている。



即ち 日本人LSにはタイ・日本のLS事業者のサポートが増え、サポートも充実してきたが、タイ政府・TATは2年前とあまり変わらない状況である。LSビザやエリートカードなどの形を作ってもサービス等のソフトの進展がないのである。

\* タイ国での日本人ロングステイヤーのサークル クラブ

(1)タイロングステイ日本人の会(TLSJ) バンコク 約120名

(2)チェンマイ ロングステイライフの会(CLL) チェンマイ

#### 4. 今後の方向について

タイ国投資委員会(BOI)は長らくロングステイ(シニア ケア)を投資奨励事業にすると発表してきたが、ようやく2004年後半日本企業が認可をうけ活動を開始している。従って今後は日本人によるLS事業が活発になり、多様で、要求の厳しい日本人LSに対応したきめ細かいサポートやサービスが期待できる。

最近の日本人タイ国ロングステイの傾向(私見)

1. 目的が明確になってきた  
研修(タイ語・英語、カーピング、マッサージ)、治療(歯科・視力)、エステなど
2. 期間、時期(避寒・花粉症対策)もさまざま
3. 定年後・年金者だけでなく50才代も
4. 非健常者・要介護者もLS志向に
5. 過去の経験・能力をいかせる就労(ボランティアも)を希望
6. バンコクからチェンマイなどに分散
7. 住宅・住宅費への関心や不満が多い

これらの傾向と 2. で述べた「多数の団塊の世代」「医療・介護の不安」にキッチリと対応することが、ロングステイヤーにもタイ国にも、タイ・日のロングステイ事業者にも大きなメリットになると考える。特に上記 5. の就労は(時間・収入の制限をつけても)タイ国企業へのメリットだけでなく、他国との差別化でタイ国LS振興になるものである。

JTBFロングステイ委員会

JUNE 2005

Copyright (C) 2005 Japan-Thailand Business Forum. All Rights Reserved

会員 上東野幸男

ロングステイヤーは「ビザ無し」または「通過・観光・留学・ロングステイ・年金・ビジネス」等のビザでタイ王国に入出国する。就労しない高齢者に支給される所謂「退職者ビザ」は受入各国でさまざまな名称でPRしている。タイ王国が推奨しているロングステイ「OA」ビザは大使館のパンフレットやホームページ、ロングステイガイドブック・雑誌で説明されているが、無駄な時間・手間を省きたい申請者の立場からのノウハウを記述する。

- \* 50歳以上。パスポートは有効期限が1年6カ月以上。全ページコピー(3部)。
- \* まず、在日タイ王国大使館(領事部)に提出する申請書(大使館ホームページで可)を記入作成しておく(3部)。
- \* 金融証明書の「タイ国内銀行預金残高証明書(英文)」はバンコク銀行在日支店に預金(6ヵ月定期)してから最長3週間かかる(手数料1万円)。預金にはパスポートが必要。タイ国に支店のある日本の銀行の場合はタイ国に行って口座を開かなければならない。預金残高証明書や年金等証明書は入手後「公証人役場の認証」が必要。本紙とも3部。なお預金残高のみは80万バーツ(225万円)以上、年金のみは月収65千バーツか年収80万バーツ以上、預金と年金の場合は年収80万バーツ以上が条件。
- \* 無犯罪証明書は警視庁・道府県警察本部に「ロングステイビザ申請書」を添付して、本人が申請する。パスポート・戸籍抄本・住民票が必要。証明書を入手後、外務省移住部証明班に本人が認証申請(代理人は委任状必要)。警視庁から外務省は5分の距離だが、認証受取は翌日以降になる。認証を受けた証明書は厳封のまま大使館に提出。
- \* 英文健康診断書を発行できる国公立病院は東京都でも限定される。費用も2万~3万円。無犯罪証明書と同じく外務省に本人が認証申請。認証後本紙とも3部用意。
- \* 英文経歴書はタイ王国大使館フォーム(ホームページで可)に記入、本紙とも3部用意。
- \* 航空券または予約の確認書(搭乗者・タイ国入国日・便名が表記されたもの)3部用意。
- \* 写真(4.0 x 4.5 cm)4枚(申請書本紙に2枚、コピー2部に写真各1枚)
- \* \* \* 「年金証書または日本側銀行残高証明書」は忘れることが多いので注意。  
(銀行は信用金庫等も可である)

申請は大使館領事部窓口で午前9:00~11:45までに申請書と必要添付書類を提出する(電話で時間の事前予約可能)。外務省から直行の場合は大使館でコピー(1枚=¥10)。「ロングステイする理由や現地保証人との関係など」の質問を受け、問題がなければ翌開館日以降にビザが取得できる。全体で一ヶ月程度の期間は見込んでおきたい。

## 会員ご紹介: バンコック銀行

### BANGKOK BANK LTD (BBL)

バンコック銀行は、1944年の設立以来、タイ国の経済発展と共に歩み、変容し続ける社会情勢やビジネス環境に常にチャレンジして参りました。タイ国内に672店舗、また、海外では世界の主要ファイナンシャルセンターも含め、12カ国19拠点で営業活動を行うタイ国最大の銀行であり、東南アジア最大の銀行の一つでもあります。個人のお客様はもとより、日系企業の皆様方にも是非、タイ国最大のグローバルネットワークをご利用・ご活用頂きますようお願い申し上げます。

日本では、1955年に東京支店、1970年には大阪支店での営業を開始して以来、半世紀に亘り、国際金融・貿易金融業務、外国為替業務、企業向け融資、海外送金業務など様々な分野においてお客様のご要望に迅速、的確にお応えして参りました。今後とも、お客様のニーズに迅速に対応し、最大限のお手伝いをさせていただきますので、何なりとお気軽にご用命下さい。尚、タイ国にロングステイをご計画の個人のお客様については、本店口座開設のお取次ぎをさせていただきますので、是非ご利用下さい。



#### < 東京支店 >

〒105-0003

東京都港区西新橋 2-8-10

Tel : 03-3503-3333 (大代表)

Fax : 03-3502-6420

#### < 大阪支店 >

〒540-0056

大阪府大阪市中央区久太郎町 1-9-16

Tel: 06-6263-7100 (大代表)

Fax: 06-6263-6286



#### 【 海外拠点 】

上海、汕頭、廈門、北京、香港、九龍、ジャカルタ、ピエンチャン、ヤンゴン、マニラ、シンガポール、台北、高雄、台中、ロンドン、ニューヨーク、ホーチミン、ハノイ、マレーシア

## 編集後記

6月TATのご好意で日本未上映のタイ映画「ラナート」(タイ語版)を見ることができた。ラナート エークはタイ楽器の主演である木琴である。深さ12cmの舟形の共鳴箱の上に21~22枚の音板を並べ、板両端に紐を通して長さ(左右)120cm・幅(前後)20cmの大きさ。撥はマイケンとマイヌアイの2種類で、直径4cmの円盤状に40cmの柄がついている。映画は英語題「overture」、今秋以降日本公開は「**風の前奏曲**」(別紙チラシ)であり、04年のスパンナホン賞(タイ国アカデミー賞)の7部門を受賞した名作である。物語は第二次世界大戦下に伝統芸術に対し、迫害・弾圧が迫り、死の直前まで(日本軍への抵抗)交渉を続けたラナート奏者「ソーン シラパバレーン師」の生涯が描かれ、全編タイ音楽が流れる感動作であった。

ご存知の通りバンコクの映画館では最初に国王・国旗が映り、国歌・国王賛歌が流れるが、いつも遅れて立ち上っていた私はタイ映画には無知であるので、タイ国大使館(広報)のアドバイスで調べた結果をご報告します。

### タイ映画は

映画(nang)のことをパパヨンとも言う。1927年にタイ人による最初のパパヨンが撮影された。タイ王室は映画を重視し、関与してきた。(隣国カンボジアのシアヌーク国王が映画制作に携わっていたのと興味深い一致である)

タイ映画は「トムヤムクン」のようなもので、「甘さ・酸っぱさ・辛さなどのゴチャ混ぜで、なんでもあり」と言われている。

タイ映画の定番(日本の忠臣蔵にあたる)は「ナンナーク」(精霊・お化け)である。ピーを信じるタイ人のアミニズム的世界観が基本にある。

一方、タイ映画には三つのタブーがある。「王様」「仏教」「ヌード」である。ラマ4世が主人公の「王様と私」は国王を侮辱しているとして放映禁止だった。同じ原作の「アンナと王様」の撮影はマレーシア、主演は香港男優だった。

(5月エメラルド寺院=ワットプラケオの近くで行われた05年ミスユニバース・コンテスト出場者の水着撮影会に対し、タイ政府は「仏教を冒瀆しており、不謹慎」として、ビデオ映像非公開を求めたのは最近のニュースである)

日本との合作は1950年代に「THE GAIJIN」日本題名「山田長政 王者の剣」があり、長谷川一夫・若尾文子・市川雷蔵が出演している。

最近の日本上映話題作は、02年「忘れな歌」~04年「マッハ」や「ナンナーク」。今年3月の「フェーンチャン 僕の恋人」はタイ国通の秋篠宮殿下が絶賛していた。

なお「**風の前奏曲**」のチラシは銀座テアトルシネマ今秋の上映ですが、期日未定です。

JULY 2005 事務局 上東野



## 日タイ ロングステイ交流協会 事務局

〒279-0012

千葉県浦安市入船 1-5-2 明治安田生命新浦安ビル 15F

株式会社 リエイ インターナショナル事業部内

TEL: 047 ( 355 ) 9000 FAX: 047 ( 305 ) 7848